文部科学省科研費学術変革領域研究（A）「生涯学」主催

シンポジウム「生涯学」の展開

―脱毛から身体と社会の関係性を考える―

社会の高齢化と個人としての長寿化は、私たちに既存の社会制度や人生設計の見直しを迫っています。「人生100年時代」とも言われる時代のなかで、私たちは、発達や加齢にともなって変化する自らの身体と向き合いながら、「あるべき」身体や「よりよい」身体を求めてますます多くのサービスや制度を利用するようになっています。日々のフィットネスや美容にとどまらず、痩身や毛髪再生といった美容医療、さらにはメタボ予防・フレイル予防やリハビリテーションに関わる社会的施策などもそこに含まれるでしょう。私たちは、社会としてこのような欲求／要求にどう向き合ってゆけばよいのでしょうか?

学際的研究プロジェクト「生涯学の創出：超高齢社会における発達・加齢観の刷新」では、従来の生涯観を刷新し、人間の生涯における変化を、社会との相互作用の中で多様な成長と変容を繰り返す生涯発達のプロセスとしてとらえ直すことを目的とした、新しい学際的研究領域である「生涯学」を創出し、2020年度から研究を展開しています。

今回のシンポジウムでは、文化人類学者の磯野先生をお招きして、私たちが自らの身体を調整し、改変し、加工し続ける営みを社会としてどう位置づけてゆくべきかを考えます。磯野先生は、これまで「拒食と過食」や「ダイエット」といった問題に関して調査されるとともに、私たちが慣れ親しんだ「医療の正しさ」や「自分らしさ」といった考え方に対して文化人類学の視点から疑問を投げかけてきました。今回は、一般の人たちにも馴染み深い「脱毛」を題材としながら、私たちが「理想の身体」を追い求めることのどこまでが、なぜ社会的権利として認められる／られないのかを検討していきます。

※本シンポジウムと発表される成果の一部は科学研究費助成事業の支援を受けて実施しています。

日時 2023年 **11月18日㊏**
15:00－16:30

申込・詳細 https://www.kyodai-original.co.jp/?p=20743

申込締切 2023年11月15日㊌17:00

主催 文部科学省科学研究費助成事業
学術変革領域研究（A）「生涯学」総括班

共催 京都大学大学院 人間・環境学研究科

方式 ハイブリッド開催

会場 京都大学国際科学イノベーション棟5階
シンポジウムホール
https://www.saci.kyoto-u.ac.jp/access/

定員：会場参加 200名（先着順）
オンライン（Zoomウェビナー） 200名

磯野真穂 氏

日髙聡太 教授
上智大学
総合人間科学部

安元佐織 講師
大阪大学
人間科学研究科

桑原牧子 教授
金城学院大学
文学部

お問合せ
京大オリジナル株式会社　プロジェクトマネジメント部
TEL：075-753-7778　E-mail：kensyu@kyodai-original.co.jp

Lifelong Sciences
Reconceptualization of development and aging in the super aging society

プログラム（プログラム内容や登壇者は変更する可能性があります）

総合司会：筒井 淳也（「生涯学」B01 高年社会参加班（社会学）代表、立命館大学 産業社会学部　教授）

15:00～15:05　**開会挨拶**

月浦 崇 「生涯学」領域代表（京都大学大学院 人間・環境学研究科 教授（認知神経科学））

15:05～15:50　**特別講演「21世紀の理想の身体～人類学を使って脱毛が権利になる社会を想像する～」**

磯野 真穂　　＊本発表は、一般社団法人De-Siloの助成金を受けて実施されています

専門は文化人類学、医療人類学。早稲田大学人間科学部スポーツ科学科を卒業後、オレゴン州立大学スポーツ科学部に学士編入するも、文化人類学に専攻を変更。同大学大学院にて応用人類学修士号、早稲田大学にて博士（文学）取得。その後、早稲田大学文化構想学部助教、国際医療福祉大学大学院准教授を経て2020年より独立。主な公開講座・活動に、人類学の基礎を学びたい方向けの講座「FILTR」、身体と社会のつながりを考える「からだのシューレ」などがある。デサイロ（De-Silo）プロジェクト参画/理事、朝日新聞書評委員。

15:50～16:10　**特別講演を受けて**

日髙 聡太（上智大学 総合人間科学部　教授）

専門は心理学。東北大学文学研究科心理学博士課程後期課程修了。2010年より立教大学現代心理学部心理学科助教。2012年より同准教授、2019年より同教授。2023年4月より現職。主な研究テーマは知覚心理学と実験心理学。心理物理学的・脳科学的なアプローチによる、中間的な知覚・認知情報処理過程（Mid-level Perception/Cognition）の解明を目指す。現在は、複数の感覚（視覚、聴覚、触覚）における情報処理の共通性と差異に着目して検討を進めている。

安元 佐織（大阪大学 人間科学研究科　講師）

専門は社会学。アメリカジョージア州立大学博士取得。2010年より同大学で講師を務めたのち、2013年より大阪大学人間科学研究科特任助教。2017年より現職。老年学や家族、幸福感等をテーマに研究を行っている。著書に、『Positive Ageing and Learning from Centenarians: Living Longer and Better』（共著／2021年8月）、『変化を生きながら変化を創る：新しい社会変動論への試み』（共著／2018年3月）などがある。

桑原 牧子（金城学院大学 文学部　教授）

専門は文化人類学。オーストラリア国立大学考古学人類学科博士課程修了。2007年より金城学院大学、文学部准教授、2017年より現職。文化人類学の立場から、身体やイレズミ、タトゥーといった身体加工・装飾の研究を行っている。著書に、Tattoo：An Anthropology（2005年5月）『モノ・コト・コトバの人類史 総合人類学の探究』（共著／2022年3月）、『身体を彫る、世界を印す―イレズミ・タトゥーの人類学』（共編著／2022年6月）、『想像する身体　上巻』（共著／2022年12月）等がある。

16:10～16:30　ディスカッション／質疑応答（会場、及びZoomからご質問を受け付けます）

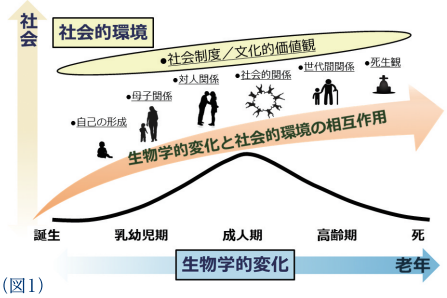
【注意事項】

■Zoomの仕様や使い方に関するお問い合わせには、お答えしかねます。また、お客様の環境等が原因で発生した、視聴できないといったトラブルにつきましては個別の対応はございません。予めご了承ください。

■次の行為はお控えください。
・本イベントの全部又は一部を第三者に提供する行為
・本イベントの録音、録画、撮影、その他複製行為
・同時に二台以上のデバイスで本サービスを利用する行為

「生涯学の創出：超高齢社会における発達・加齢観の刷新」のご紹介

65歳以上の高齢者の割合が総人口の28%を超えている我が国にとって，超高齢社会に対して社会全体としてどのように対応していくのかは，喫緊の解決が求められる重要な社会問題です．これまでは，人間の生涯は「成長から衰退へ」という単純な枠組みでとらえられてきましたが，人生100年時代の到来とともに，従来のような固定的な生涯観だけで人間の生涯を理解することは難しくなってきています．そこで本領域では，従来の生涯観を刷新し、人間の生涯における変化を、社会との相互作用の中で多様な成長と変容を繰り返す生涯発達のプロセス（図1）としてとらえ直すことを目的とした，新しい学際的研究領域である「生涯学」を創出し，研究を展開します。



（図1）

そのために本領域では，行動解析を基盤とする認知心理学的研究、脳機能の計測による生理心理学的研究、精神・神経疾患を対象とする臨床心理学的研究、社会調査を基にした社会学的研究、多様な文化を対象としたフィールド調査を基にした文化人類学的研究などの基盤的研究と、それらの基礎的研究の成果を社会実装するための教育学的研究を有機的に連携させ、基礎から応用までの展開を進める多元的な人間研究を実施する予定です。本領域の進展により、全世代の人々が豊かな人生を享受できる超高齢社会を実現するための科学的基盤の解明と、その成果を元にした社会実装を行い、新しい生涯観を社会と共有することをめざしていきたいと思います。

（領域代表者：月浦崇・京都大学大学院人間・環境学研究科・教授）

https://www.lifelong-sci.jinkan.kyoto-u.ac.jp/